

26年3月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 2月20日～ 26年3月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
仕入 動向	国産材製材品	△ 22.2	5.6	11.1
	外材製材品	△ 11.1	5.6	22.2
	構造用集成材	△ 25.0	0.0	31.3
消費 動向	国産材製材品	△ 33.3	0.0	27.8
	外材製材品	△ 27.8	5.6	27.8
	構造用集成材	△ 31.3	△ 6.3	25.0
在庫 動向	国産材製材品	0.0	0.0	△ 5.6
	外材製材品	0.0	5.6	5.6
	構造用集成材	△ 6.3	△ 6.3	0.0

国産材製材品、外材製材品及び集成材の仕入れ並びに消費は3月の減少が5月に向け増加に。

国産材製材品の在庫は3、4月の横ばいが5月にはやや減少に、外材は3月の横ばいが4、5月は、やや増加に、集成材は3、4月の減少が5月には横ばいに。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/3月	4月	5月
受注	△ 16.7	0.0	22.2
加工	△ 33.3	16.7	22.2
受注残	△ 11.1	△ 5.6	0.0

プレカットの受注は3月の減少が5月に向けて増加に。

加工は3月の減少が4、5月には増加に。
受注残は3、4月の減少が5月には横ばいに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き) ・国産材製材品の自社製材比率アップ、消費量は変化なし、在庫量は高水準。
・製材の不足感は解消されてきているが価格は高止まりとなっている。
・仕入は、先行き景気不透明のため当用買いメインとなる。消費は、プレカット受注数が徐々に減少、税の反動が来ている。在庫は絞っていく。
・仕入は、1月、2月は当初加工予定は多くあったが、大工及び材料不足で、3月、4月に伸びた物件で今月予定は先月より多いが月末にならないと、はっきり分からない。在庫は全て邸別発注している。

(受注動向) ・受注は春遠からじ。
・受注は今年に入ってからは一昨年並となっている。
・厳しい先行きが予想される。
・2月までは受注・加工とも多かったが3月に入り冬期不需用期の数量となった。4月以降は例年の数量予定。